

# 5. 富士山に見える海岸を歩こう

## 三保松原コース (約5.8km)

学習テーマ 

三保はその先端が三つに分岐した砂嘴地形であり、穂の形に似ていることが「三保」という地名の由来になったとされています。海岸一帯は「三保松原」と呼ばれるクロマツ林で、世界文化遺産を構成する一つとして登録されました。

海岸部を歩くと、富士山と駿河湾、松林の素晴らしい景色が楽しめます。また、海岸の石や海浜植物を観察するにも良い場所です。




**5** 真崎海岸  
マアジやシロギスなどが釣れる

**6** 東海大学自然史博物館  
正面入口

**1** 御穂神社・神の道

**2** 三保松原

**3** 名勝「鎌ヶ崎」

**4** 清水灯台

**5** 真崎海岸

**6** 東海大学自然史博物館

よりみちP  
東海大学海洋科学博物館  
駿河湾の深海生物や世界のクマノミなどを展示。 有料・休：火曜、年末

よりみちP  
三保ふれあい広場  
旧国鉄清水港線の終点、かつての三保駅。当時の貨物列車を展示してある。

START  
バス停 三保松原入口

GOAL  
バス停 東海大学三保水族館

START  
JR清水駅より  
バス停 三保松原入口

**1** 御穂神社・神の道 8分

御穂神社から羽衣の松までは、樹齢200~300年の松並木が500mほど続く「神の道」と呼ばれる参道があります。

**2** 三保松原 10分

約4kmの海岸線に約5万本の松が茂る「日本三大松原」のひとつです。羽衣の松の伝説や富士山への参詣の様子が描かれた室町時代の絵画に三保松原が登場することから、富士山世界文化遺産の構成資産として登録されました。

**3** 名勝「鎌ヶ崎」 10分

遠景の富士山と近景の松原や海岸が美しい調和をなす場所であり、国の名勝に指定されています。昔から多くの美術家や写真家、作家などに愛されてきました。しかし、海岸浸食を防ぐ人工構造物が景観を損ねており、景観対策が今後の課題となっています。

**4** 清水灯台 30分

明治45年(1912)に建設された、日本初の鉄筋コンクリート造の灯台です。近代化産業遺産、土木遺産、静岡市地域景観資源などに指定されています。海岸からは富士山の景観が楽しめます。

**5** 真崎海岸 35分

三保半島の先端にある海岸で、外側は礫浜、内側は砂浜になっています。釣りや海水浴などを楽しめる場所で、海の生物も観察することができます。

**6** 東海大学自然史博物館 5分

平成25年(2013)、新たに「静岡県の自然」の展示コーナーが登場し、動植物や岩石、化石など多くの標本やジオラマ、映像、解説などで静岡県の自然を分かりやすく紹介しています。

GOAL  
バス停 東海大学三保水族館

## 環境学習プログラム

**海岸に松が多いのはなぜ?**

クロマツは、他の木では生育が難しい塩害を受ける地域ややせ地、乾燥した場所でも生育できる特性があります。この特性を活かし、昔から人々は防風・防砂・防潮を目的として、海岸沿いにマツを植えて大切に守ってきました。

最近では、マツノザイセンチュウによる松枯れが問題となっていますが、抵抗性クロマツの開発や薬剤注入などによる対策を施しています。

**海浜植物を観察しよう!**

ハマゴウ、コウボウムギなどの海浜植物は、海辺の厳しい環境に適応して、地表をはう、葉を厚くして水をたくわえるなどの特徴を持っています。どのような姿をして、海辺の環境に適応しているか観察してみましょう。

**海岸の石を集めて分類してみよう!**

海岸の石の種類は、その場所がどのようにできたかを知るヒントになります。三保半島の場合は、安倍川河口に流れ出した砂礫や、有度丘陵の南部が削られた砂礫が、駿河湾の海岸流で運ばれたことにより形成されました。

海岸の石を表面の色や質感、形などで分類してみましょう。また、安倍川の石と比較してみるのも面白いのです。

**漂着ごみはどこから来たの?**

海岸には、さまざまな漂着ごみが打ち上げられ、生活の中で出たごみや外国から来たと思われるごみを見かけます。漂着するものにどのようなものがあるか、集めて考えてみましょう。